NIE実践報告

1．タイトル：**市場は万能ではない~　寡占の学習を通して**

2．学校名

沖縄県うるま市立石川中学校

3．実践者名（代表者名）

與那嶺剛

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　公民的分野　39人

6．単元（本時の学習課題）名

市場では決まらない価格~　寡占 ~

7．目標(狙い)

①寡占を例に市場で決まらない価格について考える。
②寡占などの経済の動きが日常で起こっていることを理解させる。

8．評価の視点

デジタル家電の普及の状況を学校の中や家庭の中の調査を通して理解し、新聞で発表された寡占の割合を比較し、寡占の状態を体感できているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

経済的分野全16時間中、本時取り扱い数2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

導入（5分）　寡占について新聞記事の見出しの確認と教科書での確認
展開（40分）　記事の読み合わせ　記事へのタイトル付け　記事中用語の確認　デジタル家電の寡占の実態確認（生徒自身の家庭と学校における実態調査と新聞記事の内容を合わせて）　寡占という語句の意味を再確認する　寡占の問題点を整理する　寡占の影響を考える
まとめ（5分）寡占についてまとめる

（留意点）
できるだけ「寡占」の学習を通して、経済活動が実生活の中で展開されていることを理解できるように授業展開を行う。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

日常使われている携帯電話やデジタルカメラ、パソコンなその実態調査を行うことで、身の回りのデジタル家電の様子を直接感じ取ることができた。また、それを新聞記事と比較することによって、デジタル家電の寡占の実際を体感できたことで、経済に対する見方が変容した。

12．成果と課題

新聞記事を通して、「寡占」を学習する中で経済活動が実生活に密着しながら展開されていることを生徒たちに認識させることができたのは、大きな成果であった。しかしながら、今回の実践では、教科書と新聞を併用しながら授業を展開したので、新聞記事のみで展開が弱かったという課題が残った。今後は、新聞記事を単独で活用しながら、授業を深め、教科書で学習する内容を新聞を通して深化させていけるような工夫を図っていきたい。